

Sato Project

Sato Project

農業が環境を破壊するとき —ユーラシア農耕史と環境—
「里」プロジェクト

お問い合わせ

総合地球環境学研究所佐藤プロジェクト(加藤) e-mail:sato@chikyu.ac.jp
〒603-8047 京都市北区上賀茂本山457-4 Tel:075-707-2384 Fax:075-707-2508



メ・チェム河(撮影:山口聰)

雨期になって、スコールのつど、茶色の濁流が流れ下ってくるようになった。清流で親しまれていたメ・チェム河の光景は、無秩序な自然利用の行き先を暗示している。

環境を破壊するものは誰なのか

愛媛大学農学部花卉育種研究室 山口聰

環境を破壊するものは誰なのか

愛媛大学農学部花卉育種研究室 山口聡

北部タイの少数民族の村を訪ねて

2008年の9月にサイアム・チューリップ(タイのチューリップ)とも呼ばれているCurcumaの育種と現地調査に出かけた。チェンマイから東に下がったランプーン郊外のプーディンで球根生産をしているチェンマイ・セットコン社の農園に学生と滞在して、せっせと交配作業を続けた。ここは、メオ族などの山地民族の職員を雇い、現地での花卉生産を通じて生活向上を図っている。現場の指導も兼ねて彼らの故郷を訪ねてみた。場所は、北部タイの国境近くのメー・チェン村である。タイ一番の高山として有名なドイ・インタノン国立公園の肩のところを越えて、延々と半日(6時間)ピックアップトラックの荷台に乗りながら、メー・ホンソン手前の集落まで行き、ゲストハウスに一泊して、また、荷台の上でスコールを楽しみながら延々とプーディンまで戻った。いろいろと思うところがあったので、ここに紹介することにした。

河の濁り

北部タイは山あり谷あり、滝ありで、かなり風光明媚で、日本人にも好かれそうな渓谷美にあふれている。しかも、きれいな清流である。というよりも、「あった」と表現されるようになりつつある。表紙の写真のように茶色に濁った河が多い。雨の後の濁りが特別にひどい・・・現地の人々の話である。山が荒れている。

普通の人でもすぐにわかることである。山岳地帯が近づくにつれて、実態が少しずつわかってくる。資本主義のすごさを実感することになる。整備された道路を進むにつれて、大型のトラックが沢山のキャベツを山積みして下って行くのとすれ違う。現地は有数の野菜、特にキャベツの産地である。ごくたまにカーギル社のマークの入ったトラックとすれ違うこともあると同行した花市場の関係の方が説明してくれた。



焼畑の里

到着したメー・チェンの村は焼畑の里であった。現在、主要な生産物は野菜である。大昔ならケシらしいのだが、政府の強い指導で、平和な産品に切り替えている。

私の滞在している農園の経営者（斉藤正二さん）は花卉生産の立場からこのようなプロジェクトに協力している。昔はゆったりとした周期で焼畑を繰り返し自給自足の生活をしてきた村も、定住を余儀なくされ、換金作物の栽培に進んでいる。しかしながら、ここ数年の動きは、まさに環境破壊そのものになっている。



これが焼畑農業だろうか

トラックの荷台から見回す道中は、実はコーン・ベルトでも走っているかのような錯覚にとらわれたのである。至る所にトウモロコシ畑が延々と広がっている。若い畑、完熟した畑、刻んで袋に詰め、大きなトラックに積み込んでいる畑、成熟期を違えて作付けしているのは、かなり計画的に行われていることを示している。これが、代替エネルギーとしてのコーン栽培の現場なのだ。トウモロコシ畑の中に点々と焼けこげた樹木がヌーツとたっている。ひろーい畑の中に、ぽつぽつと作業小屋も見えている。幾重にも重なった山並の果てまでがコーン畑なのである。

バイオマスとしての作物栽培がタイの山岳地帯を猛烈に襲っているのである。最初は、森林を焼き払うことから始まる。そこで、大雨の時には大量の土壌浸食があり、優しかった河が、滝が、茶色の濁流と変わるのである。大手の資本が、そして、それに協力する人々が、バイオマスとしての作物栽培を進めるために東南アジアの森林地帯に出かけて行くのである。



未来への救い



このような状態が続けば、北部タイの森林は失われてしまうかもしれない。道すがら周囲を見回していた時に、面白い看板を見つけた。それには「FOOD BANK」と書かれていたのだ。タイの少数民族の言い伝えに「森はすべてを与えてくれる」という言葉があることは、前から紹介していたのだが、まさにそのような視点から森林保護の

看板を地元の行政区が作成して、自然保護の啓発を行っていた。本当に、現地の人にとっては、食糧が自然に生育している場所としての森林、ありがたい自然、ということを実感しているのである。このような人々を一時的な資本主義的な活動の利潤のために、森林を破壊させるように、貨幣価値で誘導するようなことが行われているのである。

今一度、森林だけでなく、自然と農業との本来の相互関係を見直すことが必要である。そして、あどけない笑顔の子供達がいつまでも森に囲まれて暮らして行けるよう、祈るだけである。

